

IJ 学級通信

IJ 学級 学級通信 No. 11
令和 6 年 8 月 30 日 (金)

桃太郎の話



桃太郎は、日本の昔話の中では、有名な昔話のひとつです。近年は、通信会社の TVCM で三太郎の一人として、桃太郎も出てきていました。物語の発生は室町時代と言われ、現在伝わっている内容（桃太郎が、猿・雉・犬を家来にして、鬼が島へ鬼退治に行く）は、明治時代に成立したようです。

本題に入る前に、もう少し詳しく桃太郎の話をおさらいします。桃太郎が鬼退治を決意して、鬼が島に行く途中、きび団子を餌にして、猿・雉・犬を次々に家来にしていきます。旅の途中から舟に乗り、鬼が島に向かいますが、なかなか鬼が島を見つけることができませんでした。すると雉が空に舞い上がり、先に飛んでいき、島を捜し当てました。島に着くと、鬼の屋敷の門が閉まっていた、屋敷に入ることができません。そこで、次は猿の出番です。猿は、屋敷の周りの岩山に登り、屋敷の中に入り込むことに成功して、門を内側から開けてくれました。門が開くと、最後に犬の出番です。真っ先に屋敷内に走り込み、戦が始まります。そして、激戦の末、桃太郎側の勝利となります。

ここからは、スクールカウンセラー（SC）が学校に配置されるようになったところに、多摩地区の学校でお世話になった先生の解釈による桃太郎の話です。その先生は、桃太郎の話を題材にして、「一人前」になることを考えさせてくれました。

SCの先生は、まず動物たちの活躍に着目して、それぞれの持ち味を見ました。まず雉にはどのような特性が備わっているかという、未知なる物（鬼が島）を見つける力、先行きがはっきりしない不安の中にあっても行動する「勇気」があります。猿には、猿「知恵」というものがあります。普通は考えもしないようなことをとっさに思いつく、機転の利く能力があり、岩山を登って開門に成功します。犬は、桃太郎の指示の下、一番に攻め込むという行動からわかるように、素直に「仕える」特性があります。桃太郎は、このような特性を備えた動物たちと出会い、その能力を借りながら、最後に自分の力を発揮して、鬼を退治します。この桃太郎の話は、単に鬼を退治して、宝物を得たという話ではなく、一人の人間が「一人前」になっていくたとえ話でもあるようです。「」でくくった要素を動物たちの特性に例えて、その大切さを教えてくれています。



物語を最後まで読むと、動物たちが姿を消していることに気づきます。どこへ行ってしまったのでしょうか。その先生によると、動物たちは、自分たちの特性が桃太郎の内面に取り込まれた様子を見て、動物たちは桃太郎が「一人前」になったと思いました。桃太郎をもう助ける必要がなくなったので、動物たちは桃太郎のもとから去って行ったのではないかとおっしゃっていました。

さて夏季休業中の生徒の様子はいかがだったでしょうか？今年4月の頃のお子さんと現在のお子さんの姿は、心も体も大きく変わってきているのではないのでしょうか。これからも「一人前」を目指して、もっとできること・わかることを増やしていければいいと考えています。2学期は、職場訪問をはじめとして、合唱祭、宿泊学習、マラソン大会と行事が続きます。一つ一つの行事が、生徒一人一人の自己実現の場となり、自分の気持ちを適切に表現していくため、相手の気持ちを察するためなどソーシャルスキル獲得のためのきっかけになるようにと願っています。また3年生にとっては、進路に向けて大切な時期となります。自分のやるべきことをきちんと取り組んでいってほしいと思います。

生徒の皆さんには、2学期へ向けて気持ちを新たに、学校生活を送ってほしいと思います。自分を見つめることは簡単なことではありませんが、生徒自身が自分の持ち味に気づき、それが発揮できるIJ学級でありたいと思います。

裏面もご覧ください。

連絡

- ① 2年I組の〇〇さんが、2学期より通常学級に転籍しました。
- ② 職員の異動について
1,2年I組の英語を担当していた〇〇先生が、ご家庭の事情により退職されました。
2学期より1,2年I組の英語は、△△先生をお招きして、担当していただきます。
- ③ 時間割の変更について
英語の講師変更に伴い、火曜日の時間割が変更になります。詳細は、先日配布しましたプリントにてご確認ください。
- ④ 10月31日～11月2日実施の移動教室について、9月20日(金)14:30より保護者説明会を行います。出欠票を9月6日(金)までにご提出をお願いいたします。